

特集1 9月1日は防災の日!
防災公園を知ろう

特集2 複数の流域で治水効果を発揮する
広域調節池の整備に着手します

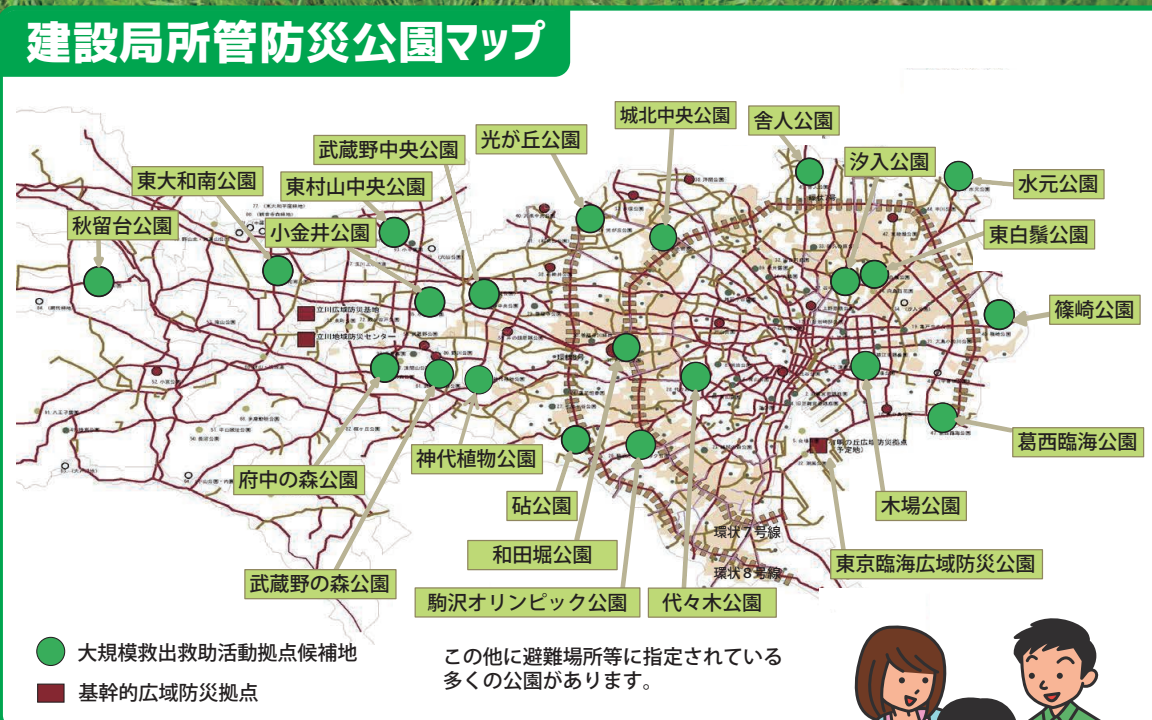


9月1日は防災の日!

防災公園を知ろう

防災公園とは
都立公園の多くは、その広さを活かして大地震が起きたときに、安全な避難場所となったり、警察・消防や自衛隊などが救出救助活動を行う基地(大規模救出救助活動拠点)となったりします。こうした公園を**防災公園**と呼んでいます。

公園の広場や競技場の中には、災害時に臨時のヘリポートとしての使用が想定されている施設があります。



防災施設の紹介

防災公園には、災害時を想定した色々な防災施設が整備されています。災害時に強い味方となる公園の防災施設について、幾つかご紹介します。

防災トイレ

通常時 災害時

災害時に給水や電気などのインフラが寸断された場合でも利用できる「防災トイレ」のほか、マンホールのフタを外してテントを設置することにより、トイレとして使用できる「マンホール型トイレ」があります。

かまどベンチ

普段はベンチとして利用し、災害時には座る部分を外し、公園内の枯枝などを燃料として、「かまど」として使用することが出来ます。寒い時期に避難することになっても、あたたかい食事などを作ることができます。

防火植樹帯

公園の周囲に植栽されている耐火性植物は水分を多く含んでおり、火災の延焼をくい止める役割を果たしてくれます。

防火植樹帯 木場公園 耐火性植物見本園看板

防災パーゴラ

防災パーゴラは、災害時にテントをかけて、救護スペース等として使うことができます。

テントを張る前 完成!

都立公園(水元公園・葛西臨海公園)では、こうした防災施設についてより詳しく紹介をしています。ぜひ災害時に役立つスキルを学びに来てください。

水元公園

施設内の様子

グリーンプラザ 防災ショールーム

【園内図】

葛西臨海公園

外観

施設内の様子

【園内図】

問い合わせ先 水元公園サービスセンター 葛飾区水元公園3-2 TEL:03-3607-8321

問い合わせ先 葛西臨海公園サービスセンター 江戸川区臨海町6-2-1 TEL:03-5696-1331



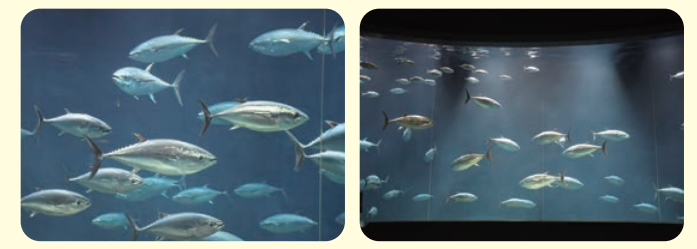
タスマニアデビルがやってきた

多摩動物公園 永田典子

6月11日から、多摩動物公園でタスマニアデビルの公開が始まりました。今回やってきたのは先住民の言葉で「マルジューナ(星)」「メイティーナ(影)」という意味の名前の2頭の姉妹です。タスマニアデビルはオーストラリアのタスマニア島にのみ生息する最大の肉食有袋類です。最大とはいうもののタヌキほどの大きさで、自分より大きな動物を襲うことはほとんどなく、主に死んだ動物を食べるスカベンジャー(死肉食動物)です。普段は単独行動ですが、鋭い嗅覚で死んだ動物に集まり、出会った個体たちで大きなうなり声を上げながら骨や皮もすべて噛み砕いて食べる様子や黒い体色などから「デビル」という名前がつけられてきました。かつてはオーストラリア大陸にも生息していましたが、人が持ち込んだ「ディンゴ(野犬の一種)」の影響や、家畜を襲う害獣と疑われ駆除されたことなどで絶滅しました。タスマニア島でも駆除の対象になったり、「タスマニアデビル顔面腫瘍病」という致死性の高い癌が生息域の広範囲に急速に広がったりして個体数が激減したことから、2003年に保全プロジェクト(Save the Tasmanian Devil Program)が発足しました。プログラムでは、野生個体群の管理や病気の研究などさまざまな取り組みが行われていますが、タスマニアデビルの現状を知ってもらうために海外の動物園へ出す試みが始まり、多摩動物公園もアジアで初めてこれに参画することになりました。

野生のタスマニアデビルは慎重で用心深いのですが、飼育下13代目となる2頭は到着した日から好奇心いっぱい、臆することなく放飼場を探索し、ヒョコヒョコと走る姿がかわいらしく人気となっています。タスマニアデビルや野生動物の保全について考えるきっかけになればと思っています。

水族園の“かお” 葛西臨海水族園 クロマグロ



6月に展示水槽「大洋の航海者 マグロ」へクロマグロを追加搬入しました。マグロたちの群泳をぜひご覧ください。